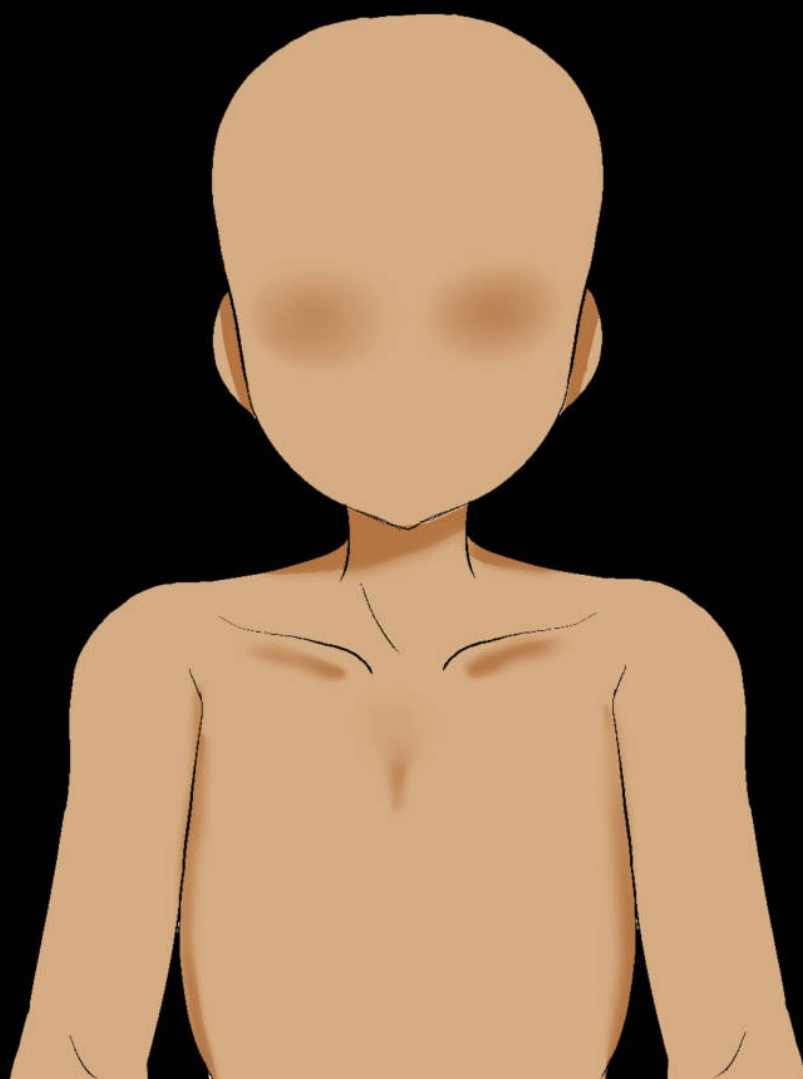


皆さんは『呪いの人形』と言えば
どんなものを思い浮かべるだろうか



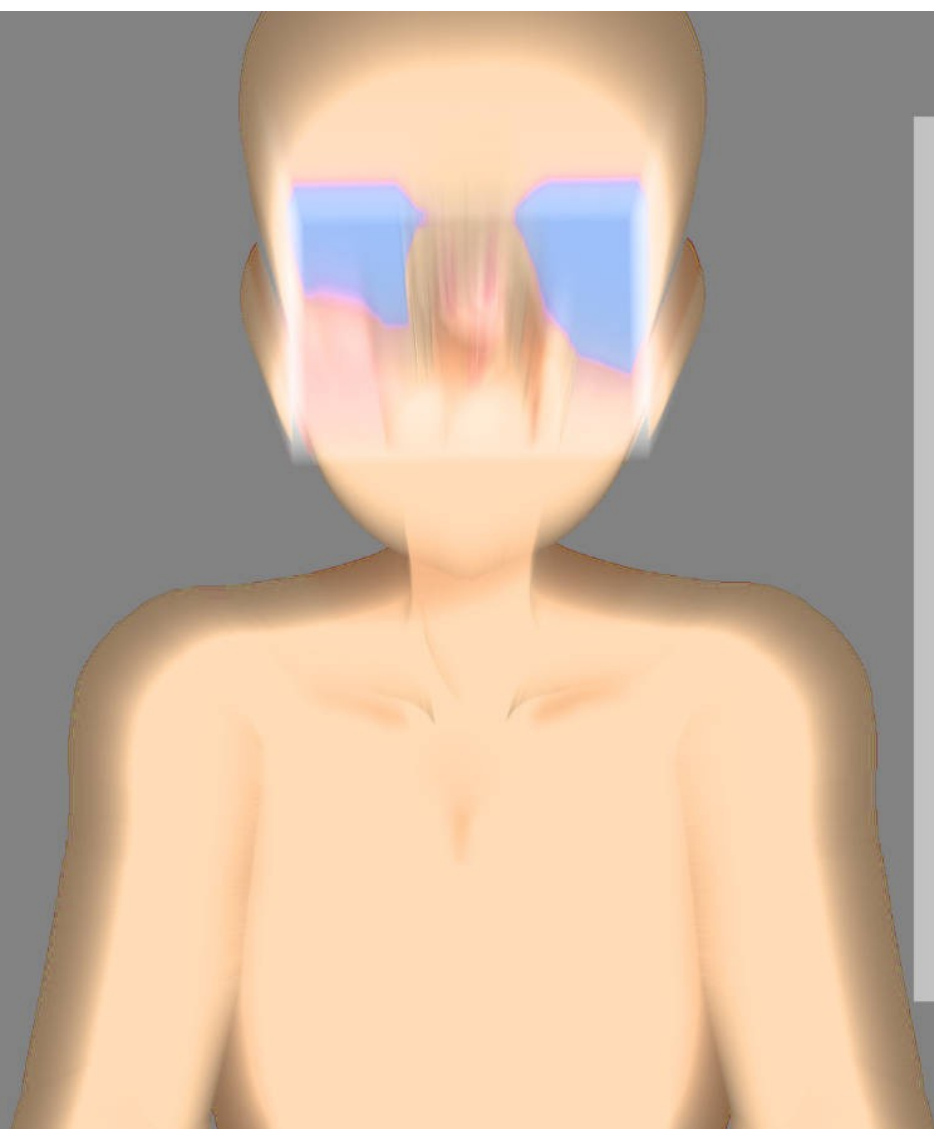
呪いたい相手を人形に見立てて
苦しめるといふ話は古今東西に
存在する。

俺が偶然古物屋で見つけた
この人形もどうやらそういう
類のものであるらしい

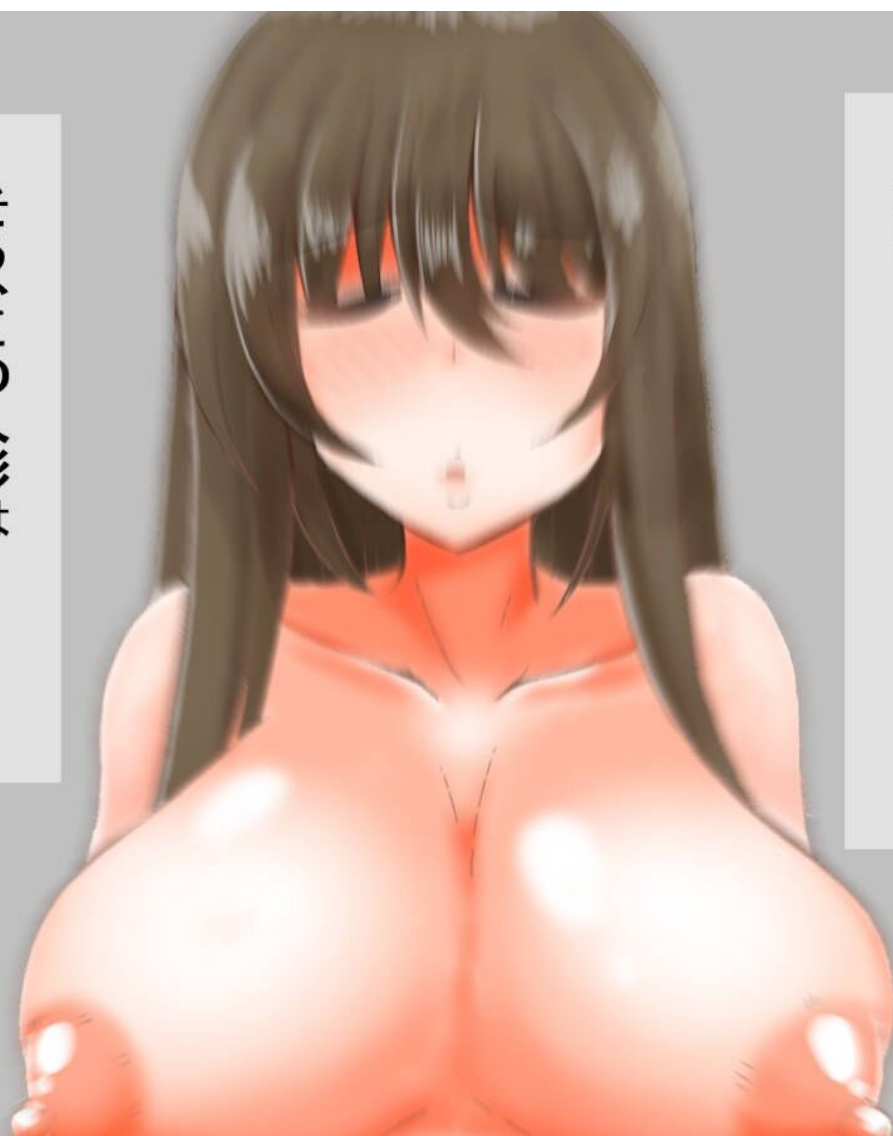


なんとこいつの顔に
人間の顔写真を
貼り付けると…

みるみると形が変わって…

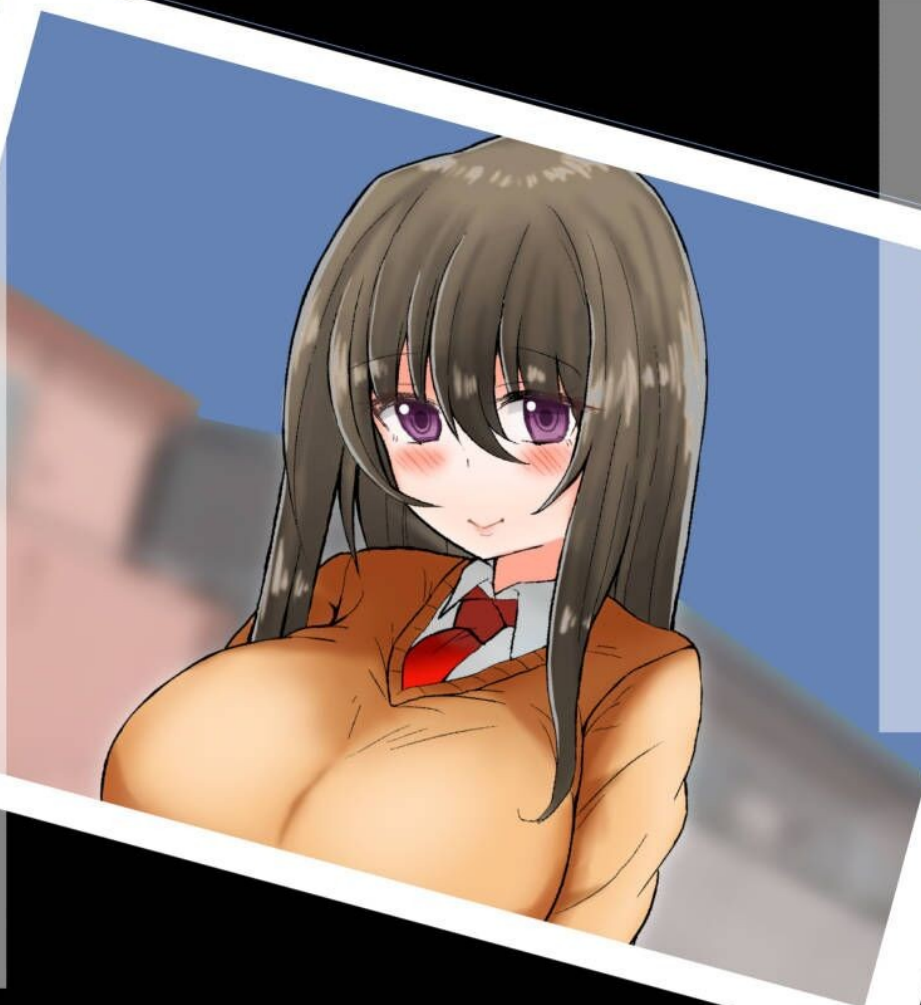


さっきまでただの硬い人形
だったのに、あつという間に
本物の人間と寸分違わない
体に・・・



そう、この人形は
貼り付けた写真の人間と
全く変わらない姿に
なってしまうのだ！

この写真の子は今年から
隣の部屋に引っ越してきた
光希ちゃんという子だ。



県内でも有名なお嬢様校に
通うため一人暮らししているらしく、
朝のゴミ出しの時によく声をかけてくれる
大人しくも気立の良い女の子である。

おはようございます、
昨日いただいたカレー！
とっても美味しかったです！

ほんと？良かった…
お口に合うか気になって
たんだ…



いつもお世話に
なってしまつて・・・
本当にありがとうございます

いいんだよ、せつかく
お隣なんだから・・・
もつと頼つて欲しいな



そう

俺のこの人生で今後
これほど可愛い女の子の
お隣さんになる機会など
二度と巡ってこないだろう



油断すると視線は
彼女の凶悪すぎる胸部
に持っていかれてしまう…

今すぐにでもその制服を
剥ぎ取って彼女の卑猥な体を
明らかにしたい…！



が、

本当にそんなことを
してしまえばここまで
積み上げてきた彼女からの
信頼を崩してしまうことになる…



そんなことをしてしまえば
もう二度と彼女の笑顔を
見ることもできなくなる…



それは…それだけは絶対に嫌だ！

そこでこの人形の出番というわけだ……
こいつに彼女の魂を憑依させる。



本物の彼女は今頃、自分の家で
眠っているはず……本物の体には
傷一つつかないし、憑依中の記憶も
曖昧になる……つまり

好き放題できるといって!!

ん…?



あれ……？

お隣さん……？なんで……？



ん…っ！っ！…ぎゅっ！お…っ？

ここは俺の家だよ、
光希ちゃんは俺と結婚
したんだよ



嘘だよお：結婚なんて
まだしてないよお：

そうか…じゃあ
これは…



夢、かもしれないね

夢……？そっかあ夢かあ……

そう、夢……だから





ひゅっ!?

夢だから...ね?

俺は彼女の体に指を走らせる。



感覚も意識も見た目も間違いなく
彼女のものだが、あくまで人形である
ため今の彼女には抵抗することは
もちろん動くこともままならない。



俺は彼女のどぷんと構えた
乳肉の先端を優しく擦る。

指の腹で擦る動作に合わせて
彼女の吐息がいやらしく
漏れていた。



な…なにこれ…
乳首コシコシされちゃってる…
こんなの変だよお…

こんなえつちな夢やだよお…
夢なのになんで変な気持ちに
なっちゃうの…？



乳首っ…
こんなにぐりぐりされたこと
ないよお…

頭ぴりぴりして…
変だよお…
私の体…私のじゃないみたい…



赤く火照った頬、だらしなく
流れる涎、ぐちよぐちよに
濡れた秘部。

彼女の肉体は今か今かと
次なる刺激を求めている
ようにしか見えなかった。



なんで…

お腹…きゅんきゅん
寂しいって…

どうしてなの…?



俺は彼女のお尻を掴むと
その体勢を大きく変えた。

今から光希ちゃんのおまんこ
ぐりぐりしてあげるからね

おま……ん……ん……





やっぱりこれセックスなんだ…
お隣さんとこれからセックス
しちゃうんだ私…

動物みたいに交尾しちゃうんだ…
交尾汁とぷとぷ注がれちゃうんだ…



とろとろに熟れた彼女の
おまんこに肉棒を押し当てる

肉棒で秘部をなぞる度に
彼女はイヤらしい肉体を
ふるふると痙攣させた。



や…あ…もお…

むち

みち

むち

焦らされるの…嫌です…

焦らしてなんかないよ？
言葉通りぐりぐりして
あげてるじゃないか

どき
どき

違あ…



な…かあ…

え？

おまんこの…なか…
お兄さんのおちんちんで
ずぼずぼしてほしい…です…

へえ…

どきどき

どきどき

どきどき

俺なんかのちんちん迎えちゃつて
いいのかなあ、光希ちゃんの大切な
ところにさ

いい……いいのお……
これ……夢だから……
大丈夫だから……

だから……

どきどき

どき
どき
どき





おおおおおおおつ!!



本能のまま腰を振る度に、
おまんこはねちよねちよと
音をたてて俺の肉棒を咀嚼する。

いやらしい膣肉はおちんちんを
味わうようにうねっている。





おかじいつペン
私オカシクなってるつつ
おちんちんでつつ
頭いっぱいにされてるよおつつ

しゅごいつしゅごいつ!!
交尾つ交尾つ交尾つ...
変だよお: きゅんきゅんして
止まらないい!!

ズン

ズン

ズン

キーン

ビュッ

ビュッ



おちんちんっ...
おちんちんがっ

これえっ...らめえ...

う...らめ...にや...

ズッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ

ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ

ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

だめだ、こんなですけべで
卑猥な体、こんなの癖に
ならないわけがない

毎日だ……毎日やるんだ……
毎日とぷとぷ俺の精液
注いで注いで注ぐんだ……！



こんな…こんなにキモチいい
こと知っちゃったあ…

戻れない…戻れないよお…
おちんぽ無しじゃ…無しじゃ…
生きられなくなっちゃうよお…

おっ♡
おっ♡
おっ♡

おっ♡

ズン
キツ

おっ♡

お

お

ズン

ズン

キツ

はあ…はあ…だ、出す…

やッ…あ…またっ…激し…

出すよ…光希ちゃん…
交尾汁っ…光希ちゃんのおまんこにっ交尾汁っ

ちめえ…ちめらよお…
ほんとにっ…戻れなくなっちやう…

おっ♡
ビクッ

どき
どき

おほ♡
どき
どき

ビクッ

夢だから…これ夢だから
大丈夫だよ…オカシクなくても
良いんだよ…!







びゅーびゅーびゅーつてえ
注がれてる...おちんぽ汁...

私...おちんぽ汁で
ぱんぱんにされちゃってる...

あたしの中...
おちんぽい...
いっ...





あ…あは…
まだびゆるびゆるしてるみたい…

キモチいいの…止まんない…

やあ…

淫らな彼女の姿と、だらしなく
痙攣するおまんこを前にして、
俺の情欲は止められなかった



3時間後、氣を失った彼女は
徐々に元の人形の姿に戻っていった。



次の日

ドアを開けると少し眠そうな
彼女の姿がそこにあつた。

えっと……？光希ちゃん……？



えへへ…実は少し
変な夢を見てしまって…

そ、そうなんだ…

それで…今日は
その…どうしたの…？



実は…この間いただいた
カレーの味が忘れられなくて…

良かったら…なんですけど
作りかたを教えていただけたらなって…

え…あ…それは良いけど…





手取り…足取り…
お願いしますね？

はい…ぜひ…

え…今から…？